

『恋人の聖地による地域活性化』

所属 企画・人材育成グループ
所属 企画・人材育成グループ
所属 移住・交流推進課

氏名 麻岡 翼
氏名 松田 正太
氏名 久保 萌夏

目次

1. はじめに	2
(1) 調査の背景と目的	2
(2) 調査事例の選定	2
2. 調査内容	3
(1) 地域活性化支援センター	3
① 地域活性化支援センターの概況	
② 取組に至った経緯	
③ 取組内容と効果	
④ 課題と今後の展望	
(2) 佐賀県基山町	4
① 基山町の概況	
② 取組に至った経緯	
③ 取組内容と効果	
④ 課題と今後の展望	
(3) 佐賀県玄海町	6
① 玄海町の概況	
② 取組に至った経緯	
③ 取組内容と効果	
④ 課題と今後の展望	
(4) 福岡県北九州市	8
① 北九州市の概況	
② 取組に至った経緯	
③ 取組内容と効果	
④ 課題と今後の展望	
3. おわりに	10

1. はじめに

(1) 調査の背景と目的

近年、人口減少や少子化が進む中でも、地域の活力を維持・発展させるためには、交流人口・関係人口の拡大が必要である。そのためには、地域の持つ魅力ある観光コンテンツが不可欠である。

また、地域の多様な関係者が連携して、地域ならではの魅力ある観光コンテンツを造成することで、新たな来訪者の獲得のみならず、滞在の長期化やリピーターの増加、定住促進、地域への経済効果も期待できる。

そこで、新たな観光コンテンツの一つとして恋人の聖地を取り上げ、集客を図っている地域が全国的に増えてきている。「恋人の聖地プロジェクト」や観光庁・環境省が後援する「恋人の聖地地域活性化大賞」などといった企画を通じ、行政や民間等が連携して地域の新たな魅力づくりや情報発信等の推進を図っている。

これまであまり磨き上げることができていなかった既存の地域資源や文化等を「恋人の聖地」として活かしている市町の事例について、取組に至った経緯や効果などを調査する。併せて、新たな観光コンテンツの造成のみならず、移住定住などといった他の事業への効果を考察する。

(2) 調査事例の選定

事例	恋人の聖地	選定理由
NPO 法人地域活性化支援センター	静岡県静岡市	「恋人の聖地による地域活性化大賞」の主催者であり、どのような経緯で主催しているのか、今後どのように進めていくのかを調査するため。
佐賀県基山町	大興善寺「契山」	基山町は「恋人の聖地」によって広域市町村連携によるシティプロモーションを行い、また、災害協定を結ぶなど新たな取組を行っているため。
佐賀県玄海町	浜野浦の棚田	地域資源（棚田、景観など）を生かし、「恋人の聖地」として、イルミネーションや地元の高校生との連携などの取組を行っているため。
福岡県北九州市	門司港レトロ	「門司港レトロ」として県内外から年間 230 万人以上の人を訪れる九州を代表する観光地なので、一見 PR しなくても人が集まりそうな条件（立地・知名度など）がそろっているが故の課題や工夫などを調査するため。

2. 調査内容

(1) NP0 法人地域活性化支援センター

①NP0 法人地域活性化支援センターの概況

NP0 法人地域活性化支援センターは、2006 年から「少子化対策と地域の活性化への貢献」をテーマとして、全国の地方公共団体や企業、団体との広域連携による地域活性化を目的に様々な社会貢献プロジェクトを展開しており、観光を通じて地域活性化に取り組んでいる。

②取組に至った経緯

設立当初は、各市町村の観光プロモーションを中心に行っていた。17 年前、冬は若年層を含む多くの方が訪れるスキー場が、夏は閑散としてしまっていることを課題としていた。夏は高年層の山歩きをターゲットにしていたことから、少子高齢化対策で具体的な取組が行われていないと感じ、観光と連携した少子化対策を検討するようになった。観光とは各地の資源を集客に結び付けることだと考え、若年層が訪れなくなってしまった観光地を「地域の若返り」のきっかけとなる取組を行うプロジェクトとして「恋人の聖地プロジェクト」を開始した。

③取組内容と効果

「恋人の聖地プロジェクト」は全国の観光地の中からプロポーズにふさわしいロマンチックなスポットを「恋人の聖地」として選定し、観光の新たな魅力づくりを地域活性化大賞にノミネートすることで情報発信を図るとともに、地域間の連携による地域活性化を図っている。このプロジェクトでは「非婚化・未婚化の進行」を少子化問題のひとつとして捉え、地域社会に向けて「結婚」に対する明るい希望と空気の醸成を図るための活動を行っている。どれほど取組が良くても若年層が訪れるきっかけとならなければ意味がなく、観光客が都内に限らないよう各地に環境を作っている。

事業の効果は、各地方公共団体に情報収集の手段がない中で、「恋人の聖地」を通して地域活性化大賞を授賞することで、他団体の取組を共有できることである。また、「恋人の聖地」に認定し、若年層をターゲットにすることで、若年層の受入れ体制（飲食やイベント等）を作ることになり、地域を若返らせることができる。



恋人の聖地 銘板

④課題と今後の展望

「恋人の聖地」となりうる観光地があっても、取組を行っていない地方公共団体や、「恋人の聖地」に認定されることだけで活性化され则认为している地方公共団体が多いことが課題である。現在、「恋人の聖地サテライト（恋人の聖地と連携し、恋人の聖地プロジェクトの啓発活動に貢献するスポット）」を含めると、「恋人の聖地」は約 200 カ所あり、地域活性化大賞だけでなく、直接交流できる場や仕組みを作っていきたいとしている。

(2) 佐賀県基山町

①基山町の概要

基山町は、福岡県筑紫野市と小都市に隣接する佐賀県の東の玄関口で、国道 3 号、九州自動車道、JR 鹿児島本線が通る九州の交通の要衝となっている。

人口は、1999 年の 19,153 人をピークに減少し、2018 年には 17,314 人と 19 年間で 1,839 人減少した。しかし、社会動態では、各種の移住定住施策や子育て支援策等により、2016 年度からは転出者数よりも転入者数が多くなっている。その結果、2023 年 3 月末の人口は、17,516 人と 2018 年 3 月末人口から 202 人増加している。

観光資源としては、日本最古の朝鮮式山城である「国指定特別史跡基肆城」や基山草スキー場、つつじ寺や紅葉で有名な「大興寺」などがある。2023 年 5 月には、基山が佐賀県内で初めて「未来に残したい草原の里 100 選」に選ばれた。

そして、国民体育大会から国民スポーツ大会に名称が変わる最初の大会が今年（2024 年）佐賀県で開催され、基山町は卓球競技の会場となっている。

②取組に至った経緯

基山町の園部にある「契山」は、標高は 412m の小高い山で、山の南麓には大興寺がある。昔から、この山の山頂で契りを結んだ五十猛命とさこの姫の伝説が「契山の恋伝説」として語り継がれている。

基山町に隣接する鳥栖市には大型アウトレットモールがあり、そこには年間 600 万人

が訪れるため、大型集客施設の近くにある観光地として何かできないかと考えていた。また、佐賀県内有数のつつじ・紅葉シーズンの観光地として有名な大興寺への訪問者をさらに増やす方法がないかを検討していた。そこで、基山町は恋人の聖地に申請を行うことにし、2012年7月に全国115番目の聖地として選定された。この恋人の聖地「大興善寺契山」を新たな観光スポットとして醸成させ、更なる訪問者へつなぐことを期待している。



大興善寺入口

③取組内容と効果

「絶対に穴が開かない金属」を製作しているとメディアでも紹介された日本タングステン株式会社の工場が基山町内にあり、同企業と連携しながら、「絶対に穴が開かないハートのモニュメント」を製作し、それを大興善寺「契山」に設置した。

熊本県球磨村を初め11市町村とは、共に「恋人の聖地観光協会」に参画し、地域の魅力発信に取り組んでいるご縁から、この協定締結の運びとなった。また、恋人の聖地の認定により、大規模災害時に同時被災しにくい遠隔地の地方公共団体との間で、応急対策に必要な職員の派遣、食料、飲料水及び生活必需品の提供、応急復旧対策に必要な資機材の提供について、相互応援を行うための協定を2021年2月22日に締結した。

町内最大の観光施設である「つつじ寺大興善寺」を、別のアプローチ（恋人の聖地）として訴求することで、新たな訪問者獲得へとつながった。恋人の聖地の認定により、観光面ではなく、防災など新たな事業への効果も見られた。また、観光のみならず、災害に関する協定など他の事業への効果もあった。その他にも恋人の聖地にちなんだ地域産品（お菓子、土産加工品、イベント等）を生むことができた。



絶対に穴が開かないハートのモニュメント

④課題と今後の展望

基山町は、いまだ「恋人の聖地」の認知度が低いことが課題の一つであり、改めてブランディングの磨き上げをしていかないと今後集客などが厳しいと予想される。また、「恋人の聖地」の題材は「契山伝説」であるが、あくまでイメージであるため、継続した顧客につなげるには工夫が必要である。

今後、近隣の大規模な集客施設や福岡都市圏である地の利を生かし、立ち寄りスポットとして成熟し、近隣の「恋人の聖地」と連携し広域的な観光ルートとして、相互顧客を期待したいと考えている。また、「契山伝説」から派生するソフト事業として、従来の婚活、結婚式のみならず大人婚など多方面からターゲットの誘客につながる仕組みができるとよいと考える。

いずれにしても、今人々がどんなところに訪れたいと思うか、トレンドをリサーチし、また、地域の思いを事業につなげることで持続可能な取組になることを期待する。

(3) 佐賀県玄海町

①玄海町の概況

玄海町は九州北西部佐賀県の東松浦半島の中央に位置し、西は玄界灘、北・東・南を唐津市に接し、遠くは壱岐対馬を見渡すことができ、雄大な玄界灘に面したリアス式の美しい海岸は玄海国定公園に指定されている。

2005年に近隣市町村が合併したことにより唐津市となったが、原子力発電所があることから、玄海町のみ合併をしていない。

人口は5,000人程度で、町には工業高校が一つあり、同校が授業の一環として、恋人の聖地である浜野浦の棚田を盛り上げるための政策（後述に記載）に協力している。

②取組に至った経緯

浜野浦の棚田が恋人の聖地に認定されたのは2006年で、全国19番目である。玄海町は、佐賀県を観光で訪れた人の単なる通過点（通り道）となってしまうため、玄海町で一度足

を止めてもらうために、浜野浦の棚田を観光地化しようと恋人の聖地として登録した。

③取組内容と効果

浜野浦の棚田は、海岸から駆け上がる階段のように、大小 283 枚の田んぼが幾重にも重なっており、水平線に沈む夕日が見どころである。

また、棚田で採れた米を返礼品としており、市場に出回ることも少なく、100 個限定という付加価値に注目が集まっている。

さらに、観光客に楽しんでもらう工夫として、カプセルトイを設置している。カプセルトイの中には、地域の工業高校の生徒が授業で作成したお守り品（木材を小さくハート型に加工して文字を彫ったもの）も入っている。この取組は、地域住民のシビックプライドの醸成とともに、高校生の木材加工技術力のアップにもつながっている。



浜野浦の棚田

夏には玄海町で花火大会を開催しており、SNS を積極的に活用したイベントの周知にも力を入れている。また、花火大会に合わせ、ペットボトルに LED ライトを入れ、約 14,000 本の灯りで棚田を彩るイルミネーションイベントも行っている。ライトの加工作業は、地域の高齢者を中心にボランティアとして協力しており、地域住民同士のつながりを深める場にもなっている。



浜野浦の棚田（イルミネーション時）

過去には、町への移住・定住を目的に、恋人の聖地ということで大規模なお見合い（町コン）イベントも開催している。その結果、一組のカップルが成立し、結婚して移住するまでに至った。回数を重ねるに連れ、参加人数の減少が目立ったため、現在は次の開催時期や内容について検討している。

④課題と今後の展望

浜野浦の棚田は、元々観光地ではないため、訪問者がお金を使う場所がないことが課題である。棚田でとれた米に付加価値をつけて、食べ物に新たに商品開発ができないかなどを検討している。

また、人手不足により棚田で米を育てる後継者がいないことが最も大きな課題である。その対策として、浜野浦の棚田を区分し、これから農業を始めたいという人向けに、農家の指導を受けながら米作の体験ができる企画を行った。東京からも応募があったが、計画していた応募数には至らなかったため、広報に力を入れて、棚田の魅力とともに発信していく。

(4) 福岡県北九州市「門司港レトロ」

①福岡県北九州市の概況

北九州市は福岡県北部に位置し、7区で構成された人口90万人を超える政令指定都市である。人口は1979年に1,068,415人とピークを迎えて以降は、減少している。近年では、毎年5,000人以上が減り続けており、2023年9月現在は916,748人となっている。2018年には「SDGs 未来都市」に認定され、環境と経済の好循環を目指した取組を実施している。

観光面では、行政と企業、地域のまちづくり団体で作り上げた観光地「門司港レトロ」や世界遺産や日本遺産、「日本新三大夜景都市」で全国1位に認定された夜景など、多くの魅力を有している。

②取組に至った経緯

恋人の聖地として登録されている「ブルーウィングもじ」は、観光地「門司港レトロ」内にある全長約 108m、日本最大級の歩行者専用跳ね橋である。この跳ね橋は 1 日 6 回、水面に対し 60 度の角度に跳ね上がる。1995 年にグランドオープンして以降、門司港レトロは市内有数の観光地となった。しかし、知名度は低く、九州圏内からの観光客が全体の 6 割以上を占めており、50～60 代の観光客が多かった。そのため、門司港レトロの知名度アップと県外及び若年層の観光客獲得のため、「恋人の聖地」としての取組を行った。



記念碑と開門時



開門を待つ観光客

③取組内容と効果

過去には「門司港レトロブライダルフェス」を開催し、門司港でウェディングバスツアーや撮影会を開催し、若いカップルや新婚夫婦が継続的に訪れるようイベントを行った。無料で通行できる跳ね橋が門司港レトロ内にあるため、門司港レトロの観光客が「恋人の聖地」を目的としていたかどうかの判断は難しいとしているが、「恋人の聖地」認定前後の観光客数を比較すると、2006 年は 214 万人だった観光客が、翌年の 2007 年には 220 万人まで増加した。また、地域のまちづくり団体である「門司港レトロ倶楽部」（行政や民間企業など 37 団体で構成）と連携して、地域活性化に向けた取組やイベント企画について、月 4 回の協議会を行っている。地域住民と行政の距離が近いのが特徴で、イベントは民間企業が主となり、自走できる仕組みづくりを行っている。

さらに、隣の山口県下関市は船で 5 分の距離であることから、下関市と連携し、関門海峡観光推進協議会にも加盟している。門司区と下関に 7 つのハートがベンチやオブジェに散りばめられており、デートコースにおすすめである「カンモンハートマップ」を作成するなど、相互誘客にも取り組んでいる。

④課題と今後の展望

無料で通行できる跳ね橋の存在により、事業単体での成果が明確化されていないのが課題とされている。

今後は「恋人の聖地」を活用した観光客誘客の仕組みを強化していく。写真映えするスポットの常設や、周辺の路地にある空き地を活用し、新たな観光スポット「もじろじ」の整備を行っている。現在、門司港レトロだけを訪問する観光客がほとんどだが、周辺エリアも訪問することを目的としている。また、「恋人の聖地サテライト」に認定されている北九州市「皿倉山」との連携を進めており、更なる観光客誘客の仕掛けを作りたいとしている。

3. おわりに

3つの事例を調査した結果、観光客の増加、地域間の連携強化、新たな観光コンテンツの開発などの効果が見られた。一方で課題も存在し、特にプロジェクトの認知度の低さや持続可能性が挙げられる。これらを解決することによって将来的には、地域固有のストーリーや文化を活かしたブランディングの更なる強化や、関連事業やイベントの開発を通じて、持続的な経済効果を生み出すことが期待できる。

全事例で共通しているのは観光振興を通じた地域活性化を目指していること、地域固有の資源や文化を活用したブランディングが共通のアプローチ方法であることなどである。一方で、各地域で取組の内容と目標には差異があり、それぞれの地域特性に応じたカスタマイズが行われている点などに違いがあった。この恋人の聖地プロジェクトは地域活性化の有効な手段であることが示されたが、持続可能な運営と地域住民や関係者の継続的な関与が成功の鍵であり、最も重要な点だと考えられる。

この調査を通して、恋人の聖地プロジェクトは、地域の魅力や元々ある資源を再発見し、それらを活用するための有効な手段であることが明確になった。今後の展開においては、より多くの地域住民や関係者が参加し、持続可能な形での発展が期待されると共に、他地域の成功事例を参考に、地域ごとの独自性を生かした取組が、地域の知名度向上やシビックプライド醸成等の相乗効果を生み、地域の活性化につながると考える。